

## < I > 令和6年度 教育研究活動等について

### 1. 大学の教育研究上の目的に関すること

#### (1) 修文大学の目的（修文大学学則第1条）

平成31(2019)年に改訂された修文大学学則第1条において、「本学は、教育基本法並びに学校教育法に準拠し、広く知識・教養を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、平和社会の発展と福祉に貢献することのできる社会に有為な人材を育成することを目的とする。」と定めている。

経済活動のグローバル化が加速する一方で、少子・超高齢化がすすむ日本社会。本学はこれからの時代にさらなる拡充が求められる医療・健康等の各分野で活躍できるスペシャリストの育成を目指している。それぞれの専門的な学問領域がリンクする環境で、今後の社会で求められる力を学生に身につけさせるのが本学の使命・目的である。

#### 1) 健康栄養学部の教育目的

人間を重視し、人間の生き方の創造に貢献できる管理栄養士、栄養士、栄養教諭の養成を目指し、国民の生活の質の向上と食生活の改善に携わるのに相応しい能力と専門的知識を持った人材を養成することを目的とする。

#### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成指針）：Curriculum policy

管理栄養学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するため、下記の基本的な考え方に基づいてカリキュラムを編成している。

1. 教養分野科目および専門関連基礎分野の学習
2. 専門基礎分野および専門分野の学習
3. 管理栄養士に必要な教養および知識・技術の修得
4. 臨地実習による知識と技術の融合
5. 自己啓発のための積極的・継続的な学習の確保

#### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）：Diploma policy

管理栄養学科では、所定の単位を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学士（栄養学）の学位を授与する。

1. 豊かな人間性と高い倫理観
2. 食・栄養・健康に関する幅広い知識・技術
3. 食・栄養の観点から健康を総合的にマネジメントできる能力
4. 食・栄養の専門家として個人の栄養状態を把握し、適正な栄養管理を行う能力
5. グローバル社会に対応したコミュニケーション能力

## ①令和5年度の主な取り組み状況とその成果（検証）

学生が満足するキャンパスライフになるよう、「学生ファースト」をスローガンに掲げて活動している。主な取り組みは、

1) 入学時の目標に掲げている管理栄養士の資格取得に全力で支援する。

一朝一夕に合格率を上げることは難しいが、受験希望者を全員受験させるとの基本方針は堅持している。令和3年度（令和4年3月実施）、4年度、5年度の全国管理栄養士養成課程（新卒）の合格率は、92.9%、87.2%、80.4%と漸減しているが、本学の合格率は69%、67%、75%と、漸増している。もう少し頑張れば全国平均に到達できる。まずは全国平均に到達できるよう、令和6年度は合格率85%以上を目標に教員一同心をひとつにして取り組む所存である。

2) 学生生活を総合的に支援する仕組みの確立。

学部教員で構成される委員会として、①教務、②学生支援、③臨地実習、④就職委員会および⑤国試対策講座を開設し、学部内の種々行事を企画・運営している。

コロナ禍で令和5年5月まで学生の活動は制限されていたが、コロナ感染症が5類になった5月中旬からは活動を活発化している。学生支援委員会が企画運営している学外オリエンテーションがその一つである。令和5年度は愛知県美浜自然の家に1年生全員と上級生有志が宿泊し、連帯感を深めることができた。わずかな催事であるが、この活動により学部内が活性化されたように思われる。令和6年度も入学式翌日から1泊2日の学外オリエンテーションを郡上バカンス村ホテルで実施している。

臨地実習委員会は、学生が初めてキャンパス外に出る実習であり、事前事後指導のほか、実習先の決定、実習先への挨拶回りなどを行っている。なお令和6年度は、愛知県臨地実習協議会の幹事校として、実習施設の交渉や各養成施設に在学している学生の実習割り当てなどの業務を行っている。

国試対策講座は、国試対策としての詳細な年間スケジュールの立案に加え、学生の叱咤激励を行っている。この取り組みによって合格率が漸増しているものと思われる。なお令和6年度はより高い合格率を得るため、ボトムアップを目的とし、全員管理栄養士からなる組織にして活動を開始している。

## 2) 看護学部の教育目的

人間としての尊厳と人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性に裏付けられた感性により人々との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて個人の置かれた状況に最適な看護を提供できる専門的な知見と技術を持った看護師を育成することを目的とする。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成指針）：Curriculum policy

建学の精神を尊び、豊かな人間性に裏付けされた感性を培い、人として専門職業人としての知識・技術を修得することを目標としている。

この目標を達成するための基本的な考え方は次の3点に要約される。

1. 看護の対象者に対して倫理的配慮、尊厳をもって接し、信頼関係を構築し、対象

- 者の権利の擁護と意思決定を支援できる看護実践者を育成する。
2. 科学的根拠と判断力を持ち、地域社会における人々の健康増進、健康回復、疾病予防や生活の質向上に貢献できる看護実践者を育成する。
  3. 看護の対象者にチームで協働できる基盤作りや医療チームメンバーの役割を認識して対象者への情報交換・連携ができる看護実践者を育成する。
  4. 質の高い看護を提供するために生涯にわたり自己研鑽と研究的姿勢を持ち続けることができる看護実践者を育成する。
  5. 国内外を問わず、あらゆる対象者の健康問題と看護の役割を認識できる看護実践者を育成する。

#### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）：Diploma policy

人間を重視し、人間の生き方の創造に貢献できる人材育成を目標としている。この目標に到達するために計画されたカリキュラムによって学修し、定められた単位を修得するとともに次の資質、能力を身につけた者に対し、学士（看護学）の学位を授与する。

1. 生命の尊厳と人間の基本的権利を尊重できる豊かな人間性
2. 看護の現象を科学的に探究し、看護学の発展に貢献できる基礎的能力
3. 保健・医療・福祉において多職種と協働・連携する基礎的能力
4. 看護実践者として継続的に学修する能力
5. グローバル社会における健康問題と看護の役割を認識する能力

### ①令和5年度の主な取り組み状況とその成果（検証）

#### 1) 講義のDX化

新カリキュラムがスタートし2年目となりeテキストを活用した講義が徐々に浸透し、学生もペーパーレスの状況を受け入れつつある状況である。充電不足や、ネットが繋がりにくいなどのハード面のトラブルは見受けられた。また、学生自身の操作状況については、個々への対応をすることはあるが、講義が中断する等は現在のところ、報告はない。今後は、病院など実習施設にデジタル機器を持ち込むため、ガイドラインを作成し、施設への理解と協力を求めて、スムーズに対応できる環境を整える必要がある。

#### 2) 新カリキュラムによる学生の学修状況

一方、新カリキュラムで必修科目が増加していることと、2年生の留置き学生が増加していることから、旧カリキュラムと新カリキュラムによる読み替えが必要となった。読み替えをする科目の選択に困難を要し今後2から3年は続くことが予測される。新カリキュラムの履修科目が139（128）単位と多く、それが留め置き学生を増加させている要因になっている可能性も否めない。

同時に2年生(7期生)の学生数が120名弱であるため、アドバイザー教員や演習・実習での教員の配置において担当する学生数が増えている。それが、学生個々の指導時間の減少や、学生の状況把握の見落とし等も起きやすい状況になる。これ

らを踏まえて、次年度は学部全体で留置き学生の対応を検討する。

#### 3) 7期生への臨地実習の質の維持

7期生においては基礎看護学実習Ⅱで実習病棟の数が不足したことから、新たに一宮市立木曽川病院を実習病院として開拓をすることで、学生の教育の質を維持することができた。また、コロナ・ウィルス感染において実習が中止になることは持続している。これらについては、施設との調整により必ず臨地で補充を行うことができ、学生の学修機会の安定を図ることができた。

#### 4) 国家試験対策

今年度は、下級生への対応が不十分であった。また、4年生の国家試験については、5名の不合格者であった。そのうち3名が留め置き学生であり、今後は留め置き学生の対応については、別途プログラムが必要である。

また、前年度より国家試験対策専門の業者と共に学生への対策を実施しているが、業者の質によって学生への支援に差が生じることがあるため、業者選択や業者との連携を具体的に取しながら学生への国家試験対策を実施していきながら、次年度は全員合格に導く。

### 3) 医療科学部の教育目的

本学部学科は、健康栄養学部、看護学部と連携した教育を展開し、幅広い臨床検査の知識と技術を身につけ、医療を支える専門職業人となる人を養成する。一方、さらに高度な専門知識を身につけたいと願う学生に対しては、修士課程への進学のための指導を経て高度専門職業人や研究者となる道をひらく。そのため、優秀な専任教員を確保し、主体的に学修する学生を支援し、優秀な人材を育成できる体制を整える。

#### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）：Curriculum policy

広い教養と主体的な学びの姿勢を身につけた臨床検査技師の養成教育を行う。

これにより、卒業後は臨床検査技師国家資格を取得し、医療施設のみならず、健診センター、検査センターなどに加えて、治験施設支援機関（SMO）、製薬・食品関連企業、医療機器メーカーなど広い分野において国民の医療と健康を支えるために活躍する人材を養成する。

さらに、先端臨床検査を学ぶ科目として、「質量分析検査学」を設け、質量分析の医療への応用の現状と将来性について理解を深める。

医療科学部臨床検査学科のカリキュラムは、養成する人材像および学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に照らし、次に示す臨床検査学科のカリキュラム・ポリシーに則り編成している。

1. 豊かな人間性と高い倫理観を涵養するためのカリキュラムを編成し、成果は科目試験で評価する。
2. 臨床検査技師に求められる知識と技術を修得するためのカリキュラムを編成し、成果は科目試験、実習試験、臨床実習評価報告で評価する。

3. チーム医療に必要な協調性とコミュニケーション能力を涵養するためのカリキュラムを編成し、成果は科目試験で評価する。
4. 課題を主体的に発見し解決する能力を涵養するためのカリキュラムを編成し、成果は科目試験、実習試験、臨床実習評価報告で評価する。
5. グローバル社会に対応できる能力を涵養するためのカリキュラムを編成し、成果は科目試験で評価する。

#### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）：Diploma policy

医療科学部臨床検査学科では、広い教養と高い倫理観、豊かな人間性、高度な専門知識及び技術、コミュニケーション力を身につけ、医療に貢献できる臨床検査技師を養成する。

本学科が養成する人材像が備えるべき要素は次の通りであり、これを学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）とする。

1. 生命の尊厳と人間の基本的権利を尊重できる豊かな人間性
2. 臨床検査に関する基礎的知識・技術
3. チーム医療における多職種連携のための協調性・コミュニケーション能力
4. 医療情報を収集し主体的に学修する能力
5. グローバル社会における医療問題を認識する能力

### ①令和5年度の主な取り組み状況とその成果（検証）

#### 1) 全体の取り組み

令和2年度に開設した医療科学部は、令和5年度には1-4年まですべての学年が揃った。新型コロナも一段落して、臨床検査技師に向けての教育を充実させるため、教員は1週間に2回以上、昼休みに現状報告と教育内容についてWEBあるいは対面で話し合いを行った。講義や実習についていけない学生にはアドバイザー、担任、学部長が話し合い、1人1人の適正を見極めて、きめ細かい指導を行うように努力した。

#### 2) 卒業研究

令和5年度は第1期生（4年生）が初めて卒業研究を発表し、卒業論文をまとめる年になった。実際にはすでに3年生の頃から卒業研究を行なっており、4年生では週1回それらを完成させるゼミがほとんどであった。中間研究発表会を9月上旬に行い、討論を経て、後期はゼミごとにA4の用紙にまとめた。卒業論文は全教員にメールで配布すると同時にDVD1枚に収録して、各教員、大学の図書室に保管した。

#### 3) 就職支援

第1期生の就職支援は就職支援委員会と学生支援センターが連携し、病院、検診センター、検査センターの就職担当者と連絡を取り合っており、学生とゼミの教員に情報提供を行なった。就職希望者は90%以上内定を取ることができた。

#### 4) 勉学の補助体制

医療科学部ではアドバイザー生をとり、1年生から学生の勉学の補助をきめ細か

く行なっている。特に3、4年生は実力テストで学力をチェックして、アドバイザーにフィードバックし、学生個人の学力に合わせた指導を徹底している。令和5年度は特に4年生に対して、月2回の実力テストを行い、その解説を中心に教員が特訓をほぼ毎日行った。

## (2) 修文大学短期大学部の目的（修文大学短期大学部学則第1条）

本学は、教育基本法並びに学校教育法の定めるところに従い、修文学院の設置目的である国家、社会に貢献する人材を育成することを基本目的として、一般教養と密接な関連の下に深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を養う大学教育を施し、円満な人格と豊かな情操を涵養し、平和社会の福祉に貢献することのできる社会に有為な人材を育成することを目的とする。

### 1) 生活文化学科の教育目的

生活文化学科は、衣食住を基盤に、より質の高い生活や文化の創造を目指して、教育研究を行い、生活者としての高い教養と専門的な知識・技能を授け、加えて社会人に必要なマナー教育を施し、以て社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

また、生活文化学科の学生はコースを問わず、学科必修科目において生活文化に関する学びを深め、基礎教養科目において一般的な教養やビジネスマナーを習得している。そして専門教育科目において、医療事務・ファッション販売・一般事務・製菓製造といったコース毎の専門的な知識や技術を習得する。学科必修科目、コース必須科目を履修し単位を取得することで、教育目的および目標を達成することが可能となる。

#### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成指針）：Curriculum policy

生活文化学科ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 基礎教養、専門知識・技能を身につける体系的な教育課程を編成する。
2. 基礎教養課程においては豊かで柔軟な人間性を育み、広く一般教養を身に付けることで、専門科目で学ぶための基本的素養・能力を養う。
3. 専門教育課程においては、「生活者としての理解」「ビジネススキルの理解」「スペシャリストとしての理解」から成る教育課程を編成する。
4. 講義、演習、実習等を通して、学生の主体的及び協働的な学びを推進する。
5. 学修の過程を通じて、成績評価の方法・基準に基づき、適切に評価する。

#### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）：Diploma policy

以下の能力を有する学生に短期大学士（家政学）の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と社会倫理を身に付けている。
2. 生活者として教養を深め、生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決することができる。
3. 社会人に必要な知識や技術をもち、自らのスキルを向上するための努力を継続することができる。
4. 各分野のスペシャリストとして、専門的な知識や技能を修得している。
5. 社会の一員として貢献することができる。

### ①令和5年度の主な取り組み状況とその成果（検証）

生活文化学科の3つのポリシーは本学の建学の精神である「国家・社会に貢献できる人材の育成」や教育目的・目標に基づき一貫性のあるものとして定めている。

卒業認定学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を卒業時点の学習成果として定めている。そして卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）をふまえた教育課程の編成や、教育課程における学習方法、学習過程、学習成果の評価の在り方を具体的に示したものが教育課程編成実施の方針（カリキュラム・ポリシー）となる。令和5年度については卒業率が96%、2年次への進級率が100%であった。卒業できなかった学生も病気療養のために通学が困難となったため、体調を整えた後、卒業を目指す予定であるため、退学者は0である。資格取得については製菓衛生師や医療事務技能認定試験は全員が合格したことからも、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）については達成できたといえる。

### 2) 幼児教育学科 第一部・第三部の教育目的

幼児教育学科は、幼児の教育・保育に必要な教育研究を行い、専門の知識、技術、技能を授け、加えて社会人として求められるマナー教育を施し、専門職としての倫理観、指導力等の保育実践力を備えた幼稚園教諭・保育士を養成し、以て社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

また、基礎教養科目を通し社会人としての基礎を学び、幼児の教育・保育に関わる専門的な知識や技術を習得するカリキュラムとなっている。幼児教育学科においても、必要な単位を履修することで、学科の定める教育目的・目標を達成することが可能となる。

#### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成指針）第一部・第三部

##### : Curriculum policy

幼児教育学科ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針で教育課程を編成し、実施します。

1. 基礎教養、専門知識・技能を身に付ける体系的な教育課程を編成する。
2. 基礎教養科目においては豊で柔軟な人間性を育み、広く一般教養を身に付けることで、専門科目で学ぶための基本的素養・能力を養う。
3. 専門教育科目においては幼児教育・保育の目的と使命、子どもの理解に関わる専門知識・技能を学ぶ。

4. 講義、演習、実習等を通して、学生の主体的及び協働的な学びを推進する。
5. 学修の過程を通じて、成績評価の方法・基準に基づき、適切に評価する。

**ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）第一部・第三部  
：Diploma policy**

以下の能力を有する学生に、本学幼児教育学科の卒業を認め、短期大学士（教育学）の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と、社会倫理を身に付けている。
2. 幼児教育・保育の専門家として、専門的な知識や技能を修得している。
3. 幼児教育・保育の専門家として、学び続ける姿勢を持っている。
4. 幼児教育・保育の当事者と協働できるルール・マナーを身に付けている。
5. 社会の一員として貢献することができる。

**①令和5年度の主な取り組み状況とその成果（令和5年度の検証）**

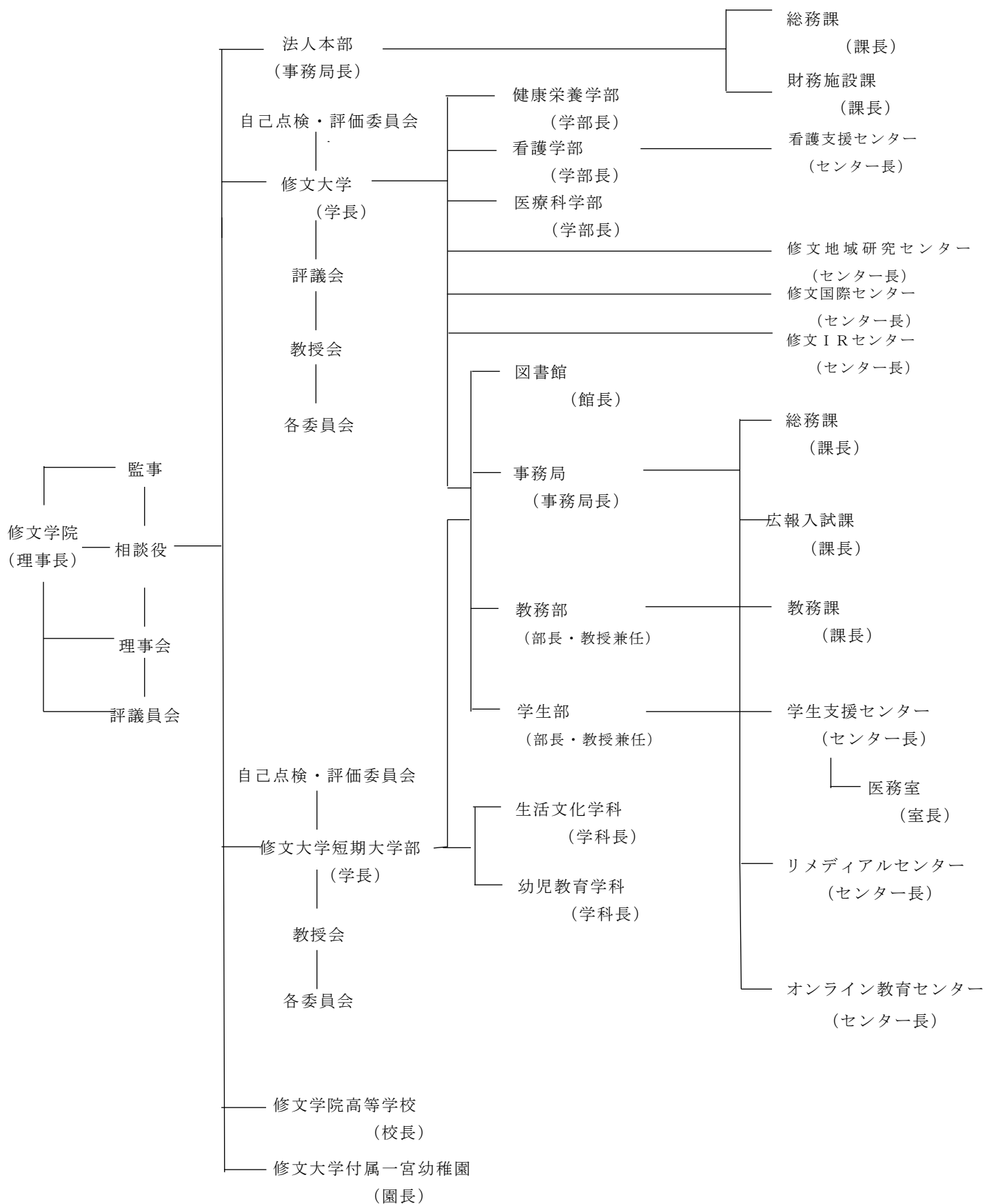
学科の目的、ディプロマ・ポリシーを成就するため、専門職（保育職）への従事意欲の高揚と実践力を身につけた学生を育てることを念頭に教育活動に取り組んできた。最終的に保育職への就職比率、第一部 100%、第三部 93%となり概ね目的を達成することができた。

また、学生個々の学修活動への取り組みや人間関係の状況についての情報を学科内で共有し、学習意欲の低下や将来目標の不明確な学生、学校生活に不安を抱えている学生へのアプローチを強化した結果、休学者、退学者の減少につなげることができた。



## 2. 教育研究上の基本組織に関すること

### (1) 学校法人修文学院管理運営組織図



(2) 修文大学・修文大学短期大学部 学部・学科・課程等の名称

大学等	学部・研究科等	学 科	課程等
修文大学	健康栄養学部	管理栄養学科	
	看護学部	看護学科	
	医療科学部	臨床検査学科	
	短期大学部	生活文化学科	生活・医療事務コース
			オフィスキャリアコース
			製菓コース
		幼児教育学科	第一部
	第三部		

3. 教員組織、教員の数ならびに各教員が有する学位及び業績に関すること

(1) 教員組織

①修文大学

健康栄養学部

大 学	学 部	職名・氏名
修 文 大 学 教授・医学博士 学長 丹羽 利充	健康栄養学部 学部長・教授 田村 明 学科長・教授 近藤 浩代	教 授 山下 照夫
		教 授 小田 雅嗣
		教 授 渡辺 昭
		教 授 大矢 友子
		教 授 川井 久美
		教 授 田中 秀吉
		准教授 南 亜紀
		准教授 小島 真由美
		准教授 丹羽 利夫
		准教授 佐々木 政司
		講 師 水田 文
		講 師 多田井 幸揮
		助 教 坂本 達哉
		助 教 浦川 明里
		助 手 吉田 安友子
		助 手 井村 奈穂
		助 手 石堂 梨早
助 手 友松 実莉		
助 手 馬淵 百萌伽		
助 手 寒河江 菜乃子		

看護学部

大 学	学 部	職名・氏名
<p>修 文 大 学 教授・医学博士 学長 丹羽 利充</p>	<p>看 護 学 部 学部長・教授 相撲 佐希子</p>	<p>教 授 春田 佳代            教 授 浅野 みどり            教 授 石黒 彩子            教 授 茂木 泰子            教 授 山口 陽子            教 授 北林 由紀子            准教授 青山 京子            准教授 那波 潤美            准教授 神谷 美香            准教授 浅場 香            准教授 大村 政生            講 師 足立 勝宣            講 師 夏目 恵美子            講 師 贍畑 敦子            講 師 平野 明美            講 師 諏訪 美栄子            助 教 東山 新太郎            助 教 中村 美奈子            助 教 和田 恵子            助 教 山田 安希子            助 手 小島 一輝            助 手 長江 綾            助 手 小出 弥子            助 手 青山 つばさ            助 手 吉川 千晶            助 手 瀧川 綾香            実習指導員 内藤 紀見            実習指導員 柴田 竹晴            実習指導員 後藤 香織            実習指導員 高木 由美</p>

医療科学部

大 学	学 部	職名・氏名
<p>文 大 学 教授・医学博士 学長 丹羽 利充</p>	<p>医療科学部 学部長・教授 磯部 健一</p>	<p>教 授 大西 一功 教 授 長坂 徹郎 教 授 越川 卓 教 授 吉田 佳督 教 授 中西 豊文 教 授 加藤 洋介 准教授 橋本 克訓 准教授 鈴木 隆佳 准教授 岩崎 卓識 講 師 松原 宏紀 講 師 帖佐 光洋 講 師 安藤 善孝 講 師 法月 千尋 助 手 梶浦 容子 助 手 蜂須賀 大輔 助 手 川岸 郁子</p>

②修文大学短期大学部

生活文化学科

大 学	学 科	職名・氏名
<p>修文大学短期大学部 教授・医学博士 学長 丹羽 利充</p>	<p>生活文化学科 学 科 長・教授 櫻井 理恵  副学科長・教授 尾上 恵子</p>	<p>教 授 相墨 一彦 准教授 鴨居 由紀子 助 教 小倉 多恵子 助 教 ヒックマン 則子 助 手 竹内 智子 助 手 石井 遥</p>

幼児教育学科（一部・三部）

大 学	学 科	職名・氏名
<p>修文大学短期大学部 教授・医学博士 学長 丹羽 利充</p>	<p>幼児教育学科 学 科 長・教授 加藤 渡  副学科長・教授 有働 真太郎</p>	<p>教 授 中野 靖彦 教 授 栗木 節子 教 授 中西 遍彦 准教授 笹瀬 ひと美 講 師 青山 勇樹 講 師 友永 良子 講 師 高橋 早紀子 講 師 山川 昭大 講 師 吉澤 幸</p>

		講 師 赤井 治美 講 師 浅川 正堂 講 師 濱口 美紗希
--	--	--------------------------------------

(2) 専任教員数等 (令和6年5月1日現在)

①修文大学

健康栄養学部

学部・学科名	専任教員数					助手	備考
	教 授	准教授	講 師	助 教	計		
健康栄養学部 管理栄養学科	8(3)	4(2)	2(1)	2(1)	16(7)	6(6)	( )内は女性

看護学部

学部・学科名	専任教員数					助手	備考
	教 授	准教授	講 師	助 教	計		
看護学部 看護学科	7(7)	5(4)	5(4)	4(3)	21(18)	6(5)	( )内は女性

医療科学部

学部・学科名	専任教員数					助手	備考
	教 授	准教授	講 師	助 教	計		
医療科学部 臨床検査学科	8(0)	3(0)	4(1)	0(0)	15(1)	3(2)	( )内は女性

②短期大学部

学部・学科名	専任教員数					助手	備考
	教 授	准教授	講 師	助 教	計		
生活文化学科	3(2)	1(1)	0(0)	2(2)	6(5)	2(2)	
幼児教育学科 第一部	3(1)	0(0)	3(2)	0(0)	6(3)	0	
幼児教育学科 第三部	2(0)	1(1)	5(3)	0(0)	8(4)	0	
(合 計)	8(3)	2(2)	8(5)	2(2)	20(12)	2(2)	( )内は女性

(3) 専任教員等の年齢構成表 (令和6年5月1日現在)

①修文大学

区 分	年齢ごとの専任教員数 (助教以上)							助手等の 平均年齢	備考
	70以上	60~69	50~59	40~49	30~39	29以下	平 均 年 齢		
合計人数 (55人)	6	13	15	13	4	1	56.4	37.6	
割 合	11.5	25.0	28.8	25.0	7.7	1.9			

②修文大学短期大学部

区 分	年齢ごとの専任教員数（助教以上）							助手等の 平均年齢	備考
	70 以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29 以下	平 均 年 齢		
合計人数 (20 人)	1	6	6	4	3	0	53.0	29.0	
割 合	5.0	30.0	30.0	20.0	15.0	0			

(4) 教員 1 人あたり学生数（令和 6 年 5 月 1 日現在）

学部等	学生数	教員数	1 人あたり学生数
健康栄養学部	148	16	9.3
看護学部	432	21	20.6
医療科学部	264	15	17.6
短期大学部	341	20	17.1

(5) 収容定員充足率（令和 6 年 5 月 1 日現在）

学部等	学生数	定 員	定員充足率
健康栄養学部	148	320	46.3
看護学部	432	400	108.0
医療科学部	264	320	82.5
短期大学部	341	540	63.1

(6) 専任教員と非常勤教員の比率（令和 6 年 5 月 1 日現在）

- ①修文大学大学 49 : 51（専任：非常勤）  
 ②修文大学短期大学部 24 : 76（専任：非常勤）

(7) 学位授与数

- ①修文大学大学 164（令和 5 年度卒）  
 ②修文大学短期大学部 131（令和 5 年度卒）

(8) 教員の業績等（令和 6 年 5 月 1 日現在）

①修文大学

健康栄養学部

番号	職位等	氏 名	学位等	主な担当科目	資格等
1	学部長 教授	田村 明	博士（薬学）	管理栄養士概論	薬剤師・臨床 検査技師
2	学科長 教授	近藤 浩代	博士（人間・環境学）	栄養教育論 I	管理栄養士
3	教 授	山下 照夫	博士（獣医学・医学）	公衆衛生学	獣医師
4	教 授	小田 雅嗣	学士（農学）	公衆栄養学 I	管理栄養士

5	教授	渡辺 昭	学士（農学）	化学	
6	教授	大矢 友子	博士（農学）	食品機能学	
7	教授	川井 久美	博士（医学）	解剖生理学 I	医師
8	教授	田中 秀吉	修士（健康科学）	調理学	管理栄養士
9	准教授	南 亜紀	修士（栄養学）	給食経営論	管理栄養士
10	准教授	小島 真由美	博士（栄養科学）	栄養総合演習 I	管理栄養士
11	准教授	丹羽 利夫	博士（農学）	食品学	
12	准教授	佐々木 政司	修士（教育学）	教育相談の理論と方法	
13	講師	水田 文	修士（農学）	応用栄養学 I	管理栄養士
14	講師	多田井 幸揮	修士（健康科学）	応用栄養学実習	管理栄養士
15	助教	坂本 達哉	修士（スポーツ科学）	体育実技	
16	助教	浦川 明里	修士（栄養学）	臨床栄養学 I	
17	助手	吉田 安友子	修士（生活科学）		管理栄養士
18	助手	井村 奈穂	学士（栄養学）		管理栄養士
19	助手	石堂 梨早	学士（栄養学）		管理栄養士
20	助手	友松 実莉	学士（栄養学）		管理栄養士
21	助手	寒河江菜乃子	学士（栄養学）		管理栄養士
22	助手	馬淵百萌伽	学士（栄養学）		管理栄養士

### 看護学部

番号	職位等	氏名	学位等	主な担当科目	資格等
1	学部長 教授	相撲 佐希子	博士（学術）	看護援助論	看護師
2	教授	春田 佳代	修士（健康科学）	看護学概論 I	看護師・保健師
3	教授	浅野 みどり	博士（看護学）	小児看護学 I	看護師・保健師
4	教授	茂木 泰子	博士（看護学）	精神看護学 I	看護師
5	教授	山口 陽子	博士（看護学）	専門ゼミナール	看護師
6	教授	北林 由紀子	修士（生体情報）	公衆衛生看護学概論	看護師・保健師
7	准教授	青山 京子	修士（人間関係学）	健康教育学 II	看護師・保健師
8	准教授	那波 潤美	修士（看護学）	母性看護学 I	看護師・助産師
9	准教授	神谷 美香	博士（看護学）	成人看護学 III	看護師・保健師
10	准教授	浅場 香	博士（看護学）	地域・在宅看護学 I	看護師
11	准教授	大村 政生	修士（看護学）	小児看護学 II	看護師・保健師
12	講師	足立 勝宣	博士（保健学）	精神看護学 II	看護師・保健師
13	講師	夏目 恵美子	修士（看護学）	成人看護学 II	看護師
14	講師	膽畑 敦子	博士（学術）	地域・在宅看護学 II	看護師
15	講師	平野 明美	博士（医学）	リハビリテーション論	看護師・保健師
16	講師	諏訪 美栄子	修士（看護学）	感染看護学 I	看護師
17	助教	東山 新太郎	博士（看護学）	基礎看護学実習 I	看護師・保健師

18	助教	中村 美奈子	修士(看護学)	基礎看護学実習Ⅱ	看護師・保健師
19	助教	和田 恵子	修士(看護学)	公衆衛生看護実習	看護師・保健師
20	助教	山田 安希子	博士(看護学)	母性看護学Ⅱ	看護師・助産師
21	助手	小島 一輝	学士(看護学)	急性期看護学実習	看護師・保健師
22	助手	長江 綾	学士(看護学)		看護師・保健師
23	助手	小出 弥子	修士(看護学)		看護師・保健師
24	助手	青山 つばさ	修士(看護学)		看護師・保健師
25	助手	吉川 千晶	修士(看護学)		看護師・助産師
26	助手	瀧川 綾菜	学士(看護学)		看護師・保健師
27	実習助手	内藤 紀見	修士(看護学)		看護師
28	実習助手	柴田 竹晴	修士(人間科学)		看護師
29	実習助手	後藤 香織	修士(看護学)		看護師
30	実習助手	高木 由美	修士(看護学)		看護師・助産師

### 医療科学部

番号	職位等	氏名	学位等	主な担当科目	資格等
1	学長	丹羽 利充	博士(医学)	病態治療学	医師
2	学部長 教授	磯部 健一	博士(医学)	免疫学	医師
3	教授	大西 一功	博士(医学)	血液検査学Ⅰ	医師
4	教授	長坂 徹郎	博士(医学)	病理学	医師
5	教授	越川 卓	博士(医学)	臨床検査総論Ⅰ	医師
6	教授	吉田 佳督	博士(医学)(薬学)	保健行政論	薬剤師
7	教授	中西 豊文	博士(医学)	遺伝子検査学	臨床検査技師 薬剤師
8	教授	加藤 洋介	博士(医療技術学)	臨床生理検査学Ⅰ	臨床検査技師
9	准教授	橋本 克訓	博士(医療技術学)	病理組織検査学	臨床検査技師
10	准教授	鈴木 隆佳	博士(医学)	臨床化学検査学Ⅰ	臨床検査技師
11	准教授	岩崎 卓識	博士(医療技術学)	臨床検査学総合演習Ⅰ	臨床検査技師
12	講師	松原 宏紀	短期大学士	超音波解剖学	臨床検査技師
13	講師	帖佐 光洋	博士(医学)	血液検査学Ⅱ	臨床検査技師
14	講師	安藤 善孝	学士(教養)	臨床検査総合演習Ⅰ	臨床検査技師
15	講師	法月 千尋	博士(医学)	病原微生物検査学Ⅰ	臨床検査技師
16	助手	梶浦 容子	専門士		臨床検査技師
17	助手	蜂須賀 大輔	修士(医学)		臨床検査技師
18	助手	川岸 郁子	短期大学士		臨床検査技師



②修文大学短期大学部（令和6年5月1日現在）

生活文化学科・幼児教育学科 第一部・第三部

番号	職位等	氏名	学位等	主な担当科目	資格等
1	学長	丹羽 利充	博士（医学）		
2	学科長 教授	櫻井 理恵	修士（家政学）	生活文化論	
3	学科長 教授	加藤 渡	修士（教育学）	子どもと健康	健康運動指導士・ スポーツ指導者
4	副学科長 教授	尾上 恵子	修士（心理学）	人間関係論	
5	副学科長 教授	有働 真太郎	修士（教育学）	教育原理	
6	教授	中野 靖彦	博士（教育学）	教育・保育の心理学	
7	教授	相墨 一彦	修士（人間文化学）	製菓専門実習Ⅱ	製菓衛生師
8	教授	中西 遍彦	修士（人間科学）	社会福祉	社会福祉士
9	教授	栗木 節子	短期大学士	保育指導法	幼稚園教諭
10	准教授	鴨居 由紀子	学士（教養）	製菓理論	製菓衛生師
11	准教授	笹瀬 ひと美	短期大学士	子どもと環境	
12	講師	青山 勇樹	学士（文学）	日本の文学	
13	講師	友永 良子	修士（エリチュール・即興）	幼児音楽Ⅰ	
14	講師	高橋 早紀子	修士（芸術）	基礎音楽Ⅰ	
15	講師	山川 昭大	修士（教育学）	子どもと表現	小学校教諭専修
16	講師	浅川 正堂	修士（教育学）	幼児体育Ⅰ	保育士・幼稚園教諭
17	講師	赤井 治美	短期大学士	保育者論	
18	講師	濱口 美紗希	修士（教育学）	子どもと言葉	幼稚園教諭・小学校教諭
19	講師	吉澤 幸	修士（教育学）	子どもの理解と援助	
20	助教	小倉 多恵子	学士（福祉経営学）	メディカル秘書概論	
21	助教	ヒックマン 則子	修士（英語学）	生活情報論	
22	助手	竹内 智子	短期大学士		製菓衛生師
23	助手	石井 遥	短期大学士		製菓衛生師

4. 入学者に関する受入方針及び入学者数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

(1) 入学に関する基本的な方針（アドミッション・ポリシー）

1) 修文大学

**健康栄養学部・管理栄養学科**

**アドミッション・ポリシー：Admission policy**

健康栄養学部では、人間を重視し、人間の生き方の創造に貢献できる管理栄養士、栄養士、栄養教諭の養成を目指し、国民の生活の質の向上と食生活の改善に携わるのに相応しい能力と専門的知識を持った人材を養成することを目的とする。この目的を達成するために、アドミッション・ポリシーとして、以下のように示している。

1. 食・栄養・健康への関心を有する
2. 栄養学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する
3. 仲間と協力しながら自己研鑽に励むことができる
4. 自ら学修する意欲を有する
5. 管理栄養士として広く社会貢献したいと考えている

### **看護学部・看護学科**

#### **アドミッション・ポリシー：Admission policy**

看護学部では、人間としての尊厳と人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性に裏付けられた感性により人々との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて個人の置かれた状況に最適な看護を提供できる専門的な知見と技術を持った看護師を育成することを目的とする。この目的を達成するために、アドミッション・ポリシーとして、以下のように示している。

1. 看護職に興味と関心を有する。
2. 人と積極的に関わる姿勢を有する。
3. 看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する。
4. 自ら学修する意欲を有する。
5. 広く社会に貢献しようとする意欲を有する。

### **医療科学部・臨床検査学科**

#### **アドミッション・ポリシー：Admission policy**

医療科学部では、広い教養と高い倫理観、豊かな人間性、高度な専門知識及び技術、コミュニケーション力を身につけ、医療に貢献できる臨床検査技師を養成することを目的としている。この目的を達成するために、アドミッション・ポリシーとして、以下のように示している。

1. 生命の尊厳を理解し、医療に携わりたいという意志を有する
2. 臨床検査学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する
3. 自分の意見を相手に分かりやすく伝えることができる
4. 自ら学修する意欲を有する
5. 広く社会に貢献しようとする意欲を有する

## **2) 修文大学短期大学部**

### **生活文化学科**

修文大学短期大学部生活文化学科は建学の精神「国家社会に貢献できる人材の育成」のもと、医療事務、ビジネス、製菓に関連した分野で活躍できる、人材の育成に取り組んでいます。生活文化学科では生活文化学科ディプロマ・ポリシーを達成するために必要な次のような人の入学を求めています。

#### **アドミッション・ポリシー：Admission policy**

1. 社会に貢献できる人材になろうという明確な意思を持ち、各分野のスペシャリストとしての知識や技術を修得する意欲のある人。
2. 2年間の学修を継続するために必要な基礎学力を備えている人。
3. 集めた情報や自分の考えを分かりやすく表現し伝えようとしている人。
4. 学習やクラブ活動等に主体的に取り組み、他者と協働するコミュニケーション能力を備えた人。

### **幼児教育学科**

修文大学短期大学部は、幼児教育・保育の分野で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。幼児教育学科では、幼児教育学科ディプロマ・ポリシーを達成するために下記のような人の入学を求めています。

#### **アドミッション・ポリシー：Admission policy**

1. 社会に貢献できる人材になろうという明確な意思を持つ人。
2. 幼児教育・保育の専門家としての知識や技能を修得する意欲のある人。
3. 本学での学びを継続するために必要な基礎学力を備えている人。
4. 集めた情報や自分の考えを分かりやすく表現し伝えられる人。
5. 学修やその他の活動に主体的に取り組み、他者と協働するコミュニケーション能力を備えた人。

## **5. その他の取り組み**

### **(1) 海外の大学との連携**

グローバル社会に対応した人材の育成も目指し、海外での留学制度や視察教育制度を充実し、海外の大学と交流して、大学の国際化を推進している。大学のホームページの英語版を作成し、大学の情報を国際的に公開している。

さらに修文国際センターを設置し、ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ、ハワイパシフィック大学とも連携協定を締結し、研究・教育の相互理解、学生の交流を進めている。

### **(2) 地域連携**

「地域社会での知の拠点としての大学の役割を強化する」として、大学・行政・企業が協働して地域産業を活性化する産学官連携を推進し、その中核的役割を果たすことを学長教育方針の一つとして実践している。

大学・短期大学部は建学の精神に基づき地域の発展に寄与できる人材の育成に取り組み、地域の産業や文化と結びつき、共に発展していかなければならない。地域社会での知の拠点としての役割を強化するために本学は、既設の「修文地域研究センター」を大学に移管し、地域連携の戦略的な拠点として地元の企業や行政と連携した活動を展開している。

この地域連携事業については下記の4つの柱に基づいて展開している。

- ①地域づくりの構想への提言・貢献
- ②文化を通じた地域づくり活動

### ③産業界との連携活動

### ④国際ネットワークの窓口

具体的な事業は以下の通りである。

#### 1. 一宮市・長野県阿南町と「包括連携協定」の締結

相互の発展に資するため、資源および研究・成果等の交流を促進し、文化、教育、学術等の分野で連携し地域の課題解決に向けて、同市と協働して様々な取り組みを実践している。

地域の地の拠点としての役割を進めていくために大学の研究成果を地域に還元することを目的に「市民大学講座」を開講し、本学教員が講師を務め、一宮市民の皆さんを対象に地域文化や健康生活の貢献を目指している。

一宮市との具体的な取り組みとしては、8月下旬に高齢者を対象として「高齢者のための栄養講座」を行っている。また、10月には一宮市環境部廃棄物対策課とともに食品ロス削減を目的とした親子クッキング教室「親子でやさしいクッキング教室」を小学生とその保護者を対象に実施している。この企画に関しては、さらに発展して、健康栄養学部の学生が考案した食品ロス削減レシピが一宮市のHPに掲載され、その一部は期間限定で市役所にて設置されているレストランにて提供された。一宮市福祉総合相談室との取り組みで医療的ケア児とそのご家族を対象としたイベント「うきうきフェスタ」が実施されているが、このイベントには看護学部と幼児教育学科の学生がボランティアで参加している。

地域の子育て支援として「大学キャンパスで親子で遊ぼう」を令和5年10月と令和6年3月に実施した。この企画は看護学部と幼児教育学科の合同企画として実施している。

さらに長野県阿南町とも連携協定を締結した。医療・健康・福祉・保育など、地域社会を支える人材の育成と学術振興に寄与することを目的とし、毎年阿南町及び阿南高校から推薦された学生を受け入れている。

#### 2. 地域企業との連携協定

「いちい信用金庫」「尾西信用金庫」「P.A.Cいちのみや（地元企業・NPO・一宮商工会議所・一宮市・本学の5社で連携）」「一宮地方総合卸売市場」等と産官学連携を深め大学の資源を提供し知の拠点として地元の発展に寄与している。また、令和4年には「株式会社湯ネックス」との産学連携に関する協定を締結した。

さらに令和5年6月には一宮市で保育園などを運営する尾張中央福祉会との連携協定を締結した。主に保育の分野での連携をめざしている。

#### 3. 「名古屋大学大学院医学系研究科」・「藤田医科大学」と連携協定

令和3年1月に共同研究や人材交流の推進に向けた連携協定である。これにより名古屋大学と共同して人材育成、交流を通じて地域の医療の発展に貢献していく。

令和5年3月1日に藤田医科大学との連携協定を締結した。臨地実習や単位互換授業などを通じて、教育の充実を推進していく。

#### 4. グローバル社会に対応した人材の育成

「修文国際センター」を設立し、アメリカ・ハワイ大学カピオラニコミュニティーカレッジ（短期大学）やハワイパシフィック大学との連携協定を結び国際的な結び付きを実践している。

コロナ禍で実施できていなかった海外研修だが、令和5年度は短大、大学ともに実施できた。短大では令和6年2月にパリへ、大学では令和6年3月にハワイでの海外研修を行った。

#### 5. 高大連携

現在地元の高등학교である「愛知県立一宮高等学校」「愛知県立一宮商業高等学校」との連携をとり、高等学校教育と大学教育の活性化を図っている。

双方の教育機能について交流・連携を通じて高校生の視野を広げ進路に対する意識や学修意欲を高めるとともに後代の活性化を進めている。

さらに令和4年度には「愛知県立一宮北高等学校」「啓明学館高等学校」との連携協定を締結した。

#### 6. 学生同士の支援活動（修文ピアーズ）

学生同士が相互に支え合い課題解決する活動として令和3年度後期より「ピア・サポート」活動（修文ピアーズ）を開始。ピア・サポート活動とは、学生たち相互の人間関係を豊かにするための学修の場を各学校の実態に応じて設定し、そこで得た知識やスキルをもとに仲間を思いやり、支える実践活動を意味する。本学での具体的な活動内容としては、定期試験、国家試験、各種資格取得等の学修上の悩みを同輩または学年を越えて相互に支え合い解決するボランティア活動である。

このように「地域連携」「海外連携」を推進していくためには、積極的な「アクティブ・ラーニング」を活用し、学生が積極的に地域活性化や国際化に取り組み、改善・提案をするシステムを実施している。

### （3）令和5年度 大学・短期大学部の入試状況

#### ①大学

学 部 学 科	健康栄養 管理栄養	看護 看護	医療科学 臨床検査
入学定員	80	100	80
志願者	68	356	217
入学者	32	98	61

#### ②短期大学部

学 科 コース	生活文化			幼児教育	
	生活・医療事務	福祉・ケア	製菓	第一部	第三部
定 員	100			50	80

志願者	62	16	69
入学者	62	15	67

(4) 入学者数・入学定員・収容定員・在学者数・卒業者数・進学者数

①修文大学

大学等	学部・研究科等	入学者数	入学定員	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数
修文大学	健康栄養学部	32名	80名	320名	143名	16名	0名
	看護学部	98名	100名	400名	449名	91名	1名
	医療科学部	61名	80名	320名	274名	57名	4名

②修文大学短期大学部

大学等	学部・研究科等	入学者数	入学定員	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数
修文大学 短期大学部	生活文化学科	62名	100名	240名	132名	57名	0名
	幼児教育学科 第一部	15名	50名	240名	17名	9名	0名
	幼児教育学科 第三部	67名	80名	200名	184名	63名	2名

(5) 学生の状況：入学者数推移、退学・除籍等

①入学者数推移

修文大学

学部名	入学定員	入学者数			
		令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
健康栄養学部	80名	32名	37名	43名	50名
看護学部	100名	98名	104名	127名	108名
医療科学部	80名	61名	74名	78名	74名

修文大学短期大学部

学科名	入学定員	入学者数			
		令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
生活文化学科	100名	62名	73名	59名	69名
幼児教育学科 第一部	50名	15名	8名	9名	23名
幼児教育学科 第三部	80名	67名	69名	49名	66名

## ②退学・除籍等

### 修文大学・修文大学短期大学部

学科名	修文大学				修文大学短期大学部			
	5年度	4年度	3年度	2年度	5年度	4年度	3年度	2年度
退学・除籍者数	47名	26名	21名	14名	5名	4名	8名	11名
中退率	5.4%	3.2%	2.9%	2.2%	1.5%	1.2%	2.2%	2.7%
留年者数	40名	47名	36名	34名	5名	3名	4名	10名
社会人学生数	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
留学生及び 海外派遣学生数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

## (6) 令和5年度卒業生就職・進学状況

### 修文大学

学部・学科	卒業生数 (A)名	求職者数 (B)名	内定者数 (C)名	求職率 B/A%	内定率 C/B%	家事従事 アルバイト	進学者数 (名)
健康栄養学部 管理栄養学科	16	15	14	93.8	93.3	1	0
看護学部 看護学科	91	86	84	94.5	97.7	4	1
医療科学部 臨床検査学科	57	42	40	73.7	95.2	11	4
合 計	164	143	138	87.2	96.5	16	5

※. 医療科学部の「家事従事・アルバイト」の内、6名は次年度国家試験受験予定のため聴講生、  
3名はアルバイトをしながら次年度国家試験受験予定。

### 修文大学短期大学部

学部・学科	卒業生数 (A)名	求職者数 (B)名	内定者数 (C)名	求職率 B/A%	内定率 C/B%	家事従事 アルバイト	進学者数 (名)
生活・医療事務	10	10	9	100.0	90.0	0	0
オフィスキャリア	27	25	25	92.6	100.0	2	0
製 菓	20	20	20	100.0	100.0	0	0
幼児教育 第一部	9	9	9	100.0	100.0	0	0
小 計	66	64	63	97.0	98.4	2	0
幼児教育 第三部	63	55	55	87.3	100.0	6	2
合 計	129	119	118	92.2	99.2	8	2

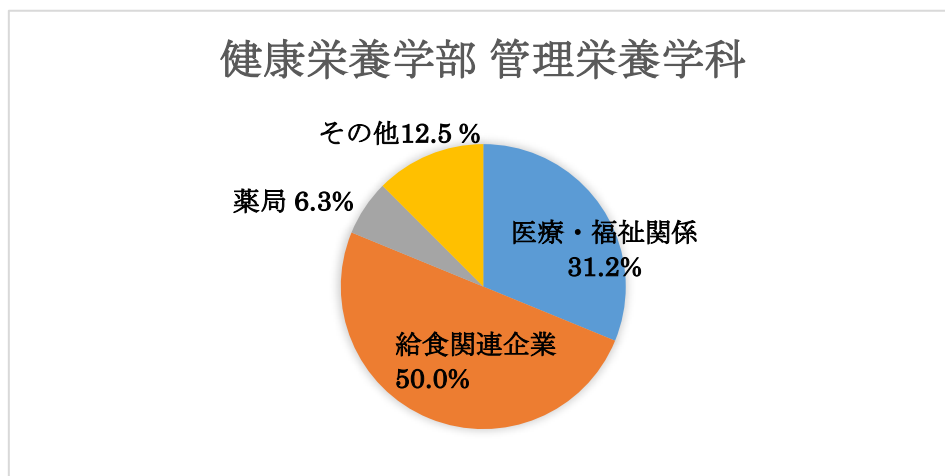
中長期計画の「第一志望就職率 90%以上」の目標達成率については、健康栄養学部

においては第一希望の医療機関または福祉施設における管理栄養士職において、就職希望者の 26.7%の学生が就職できたが、依然と求人数の少なさや他大学との競合もありまだまだ目標の値は達成できていない。反面、給食関係の希望者はほぼ 100%希望どおりに就職でき目標を達成している。看護学部においては、一昨年度保健師に 5 名が合格したが、昨年度は希望する学生はいなかった。本年度は 2 名の学生が合格できた。就職希望者の内 95%が看護師を希望しており国家試験に合格できなかった学生を除き全員が看護師として合格しており、ほぼ目標は達成できている。

短期大学部においては、生活文化学科は医療事務、一般企業、製菓店への希望が多かった。特に一般企業および製菓店希望者については、前年より採用数も増加し、生活文化学科に関する専門分野の求人も職種ごとに 1 割から 2 割増加し、就職希望者はほぼ希望の職に就職でき目標に近づいている。また、幼児教育学科においては、ほぼ希望の保育職に就くことができ目標を達成できている。「公務員就職率 1.5 倍」においては目標を達成できておらず、一次の筆記試験合格率は向上したが二次の面接等をクリアできず昨年度とほぼ同数の合格率であった。次年度以降も目標値を維持できるように更なる支援をしていきたい。

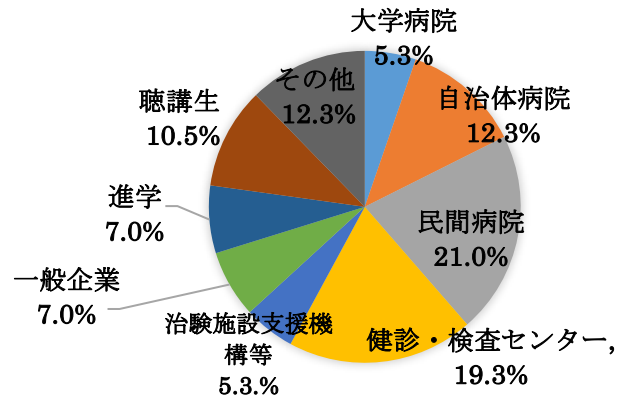
#### (8) 令和 5 年度卒業生業種別就職状況等グラフ…※令和 5 年度実績

##### ①修文大学



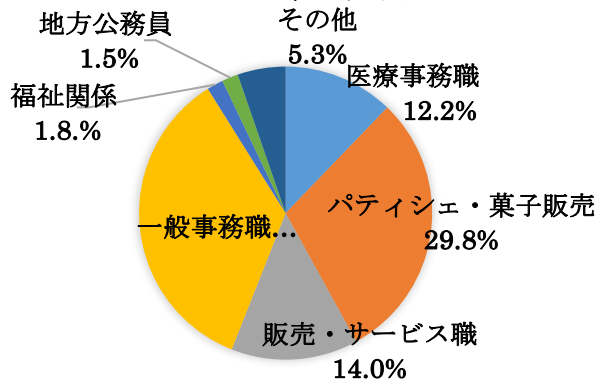


### 医療科学部臨床検査学科

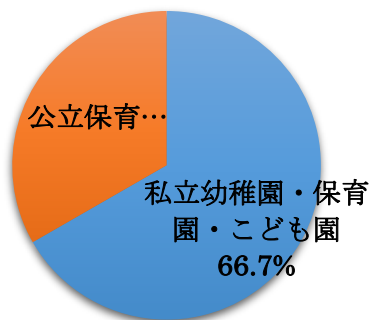


### ②修文大学短期大学部

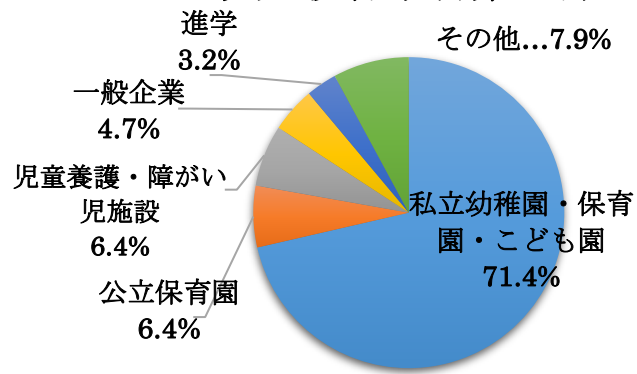
### 生活文化学科



### 幼児教育学科第一部



### 幼児教育学科第三部





(2) 修文大学短期大学部 (生活文化学科・幼児教育学科第一部・第三部)

令和6年度 修文大学短期大学部 学年暦		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日	日	曜日
1	月	1	火	1	日	1	日	1	金	1	日	1	日
2	火	2	水	2	月	2	月	2	土	2	月	2	月
3	水	3	木	3	火	3	水	3	日	3	水	3	水
4	木	4	金	4	水	4	木	4	月	4	木	4	木
5	金	5	土	5	木	5	金	5	火	5	金	5	金
6	土	6	日	6	金	6	土	6	水	6	土	6	土
7	日	7	月	7	土	7	日	7	木	7	日	7	日
8	月	8	火	8	日	8	月	8	金	8	月	8	月
9	火	9	水	9	月	9	火	9	土	9	火	9	火
10	水	10	木	10	火	10	水	10	日	10	水	10	水
11	木	11	金	11	水	11	木	11	月	11	木	11	木
12	金	12	土	12	木	12	金	12	火	12	金	12	金
13	土	13	日	13	金	13	土	13	水	13	土	13	土
14	日	14	月	14	土	14	日	14	木	14	日	14	日
15	月	15	火	15	日	15	月	15	金	15	月	15	月
16	火	16	水	16	月	16	火	16	土	16	火	16	火
17	水	17	木	17	火	17	水	17	日	17	水	17	水
18	木	18	金	18	水	18	木	18	月	18	木	18	木
19	金	19	土	19	木	19	金	19	火	19	金	19	金
20	土	20	日	20	金	20	土	20	水	20	土	20	土
21	日	21	月	21	土	21	日	21	木	21	日	21	日
22	月	22	火	22	日	22	月	22	金	22	月	22	月
23	火	23	水	23	月	23	火	23	土	23	火	23	火
24	水	24	木	24	火	24	水	24	日	24	水	24	水
25	木	25	金	25	水	25	木	25	月	25	木	25	木
26	金	26	土	26	木	26	金	26	火	26	金	26	金
27	土	27	日	27	金	27	土	27	水	27	土	27	土
28	日	28	月	28	土	28	日	28	木	28	日	28	日
29	月	29	火	29	日	29	月	29	金	29	月	29	月
30	火	30	水	30	月	30	火	30	土	30	火	30	火
31	水	31	木	31	火	31	水	31	日	31	水	31	水

## 6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

### (1) 修文大学

試験に関する事項は、「修文大学試験規程」に記載しています。

#### (1) 試験の時期

定期試験は原則として、各学期末に実施する。但し授業期間が変則の場合や先修条件により早期の判定が必要となる場合は定期試験期間外に実施する場合がある。

#### (2) 試験の種類

①定期試験、②追試験、③再試験の三種とする。

#### (3) 受験資格

受験資格について、次の各項のいずれかに該当する場合は受験資格を認めない。

- ①当該科目についての所定の履修手続きをしていない者。
- ②当該科目における出席回数が各学期の授業回数の3分の2以上に達しない者。
- ③所定の授業料等学納金が未納の者。ただし、延納許可を受けている者を除く。
- ④学生証を所持していない者。

ただし、学生証の再発行申請中の者及び不携帯の者で、教務課において、所定の手続きを行い、「仮受験票」を発行された者は受験を認める。

- ⑤その他、教授会において受験資格喪失の判定を受けた者。

#### (4) 試験の成績

各科目の成績は各学期末の試験結果、平常の学習態度、受講中の試験成績、出席日数等を斟酌し認定する。

各科目の成績については以下のとおりとする。

- ① 100点を満点とし60点を合格とする。
- ② 100点以下80点以上を「A」と表記する。
- ③ 79点以下70点以上を「B」と表記する。
- ④ 69点以下60点以上を「C」と表記する。
- ⑤ 59点以下を「D」と表記し、不合格とする。

#### (5) 卒業（学則第39条）

本学に4年以上在学し、卒業要件の単位を修得した者は、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定する。

##### 2 卒業の時期は、学年又は学期の終わりとする

学 部	学 科	学位の種類
健康栄養学部	管理栄養学科	学士（栄養学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）
医療科学部	臨床検査学科	学士（臨床検査学）

学位（学則第40条） 本学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

## (2) 修文大学短期大学部

試験に関する事項は、「修文大学短期大学部試験規程」に記載しています。

### (1) 試験の時期

定期試験は原則として、各学期末に実施する。

### (2) 試験の種類

①定期試験、②追試験、③再試験の三種とする。

### (3) 受験資格

受験資格について、次の各項のいずれかに該当する場合は受験資格を認めない。

- ①当該科目についての所定の履修手続きをしていない者。
- ②当該科目における出席回数が各学期の授業回数の3分の2以上に達しない者。
- ③所定の授業料等学納金が未納の者。ただし、延納許可を受けている者を除く。
- ④学生証を所持していない者。

ただし、学生証の再発行申請中の者及び不携帯の者で、教務課において、所定の手続きを行い、「仮受験票」を発行された者は受験を認める。

- ⑤その他、教授会において受験資格喪失の判定を受けた者。

### (5) 試験の成績

各科目の成績は各学期末の試験結果、平常の学習態度、受講中の試験成績、出席日数等を斟酌し認定する。

各科目の成績については以下のとおりとする。

- ① 100点を満点とし60点以上を合格とする。
- ② 100点以下80点以上を「A」と表記する。
- ③ 79点以下70点以上を「B」と表記する。
- ④ 69点以下60点以上を「C」と表記する。
- ⑤ 59点以下を「D」と表記し、不合格とする。

### 卒業（学則第33条）

本学に生活文化学科及び幼児教育学科第一部は2年、第三部は3年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

### 短期大学士の学位

学則第33条の規定により卒業した者には、本学学位規定に定めるところにより短期大学士の学位を授与する。

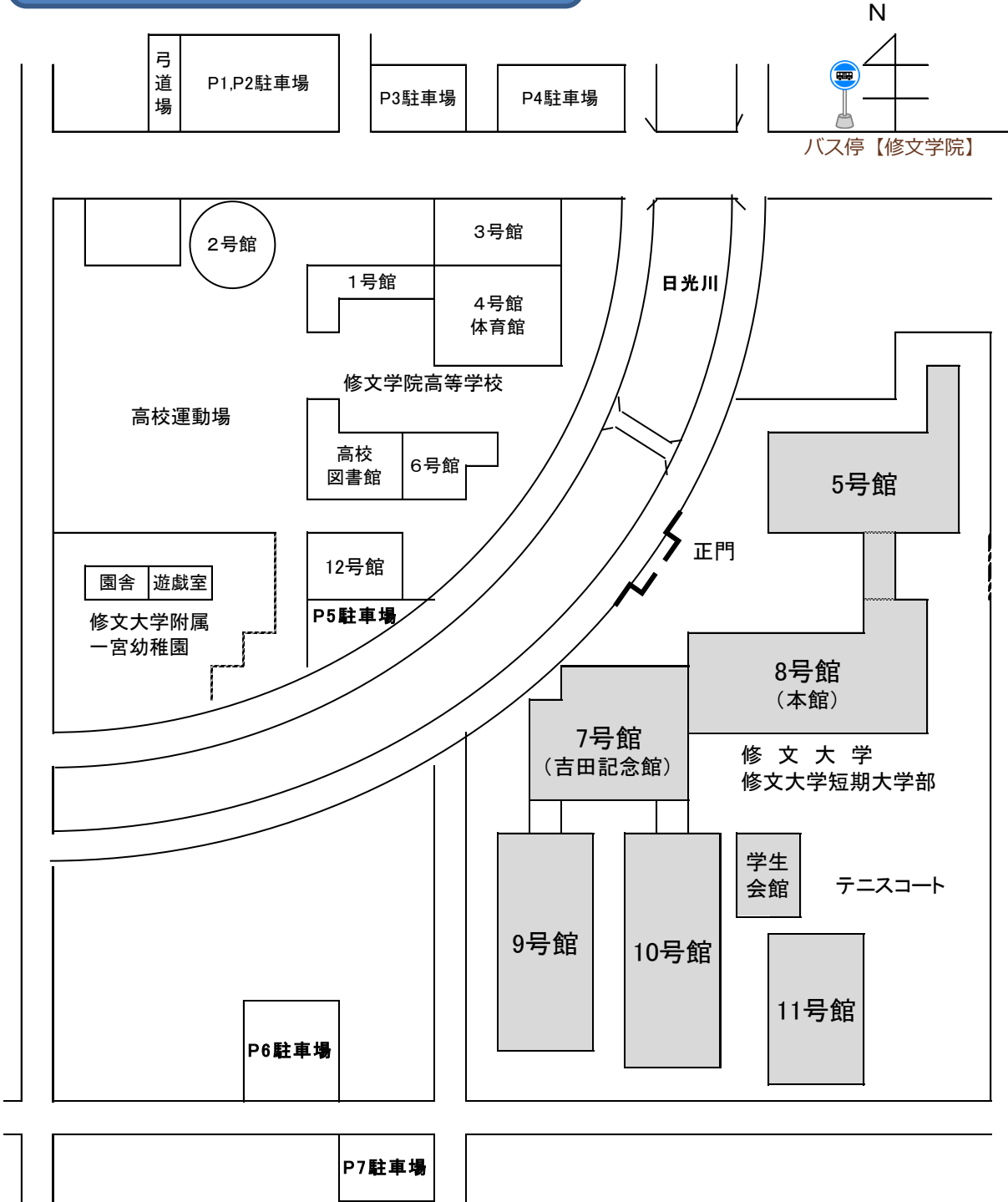
## 7. 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

### 1) 所在地「大学の概要」

修文大学・修文大学短期大学部 位置図

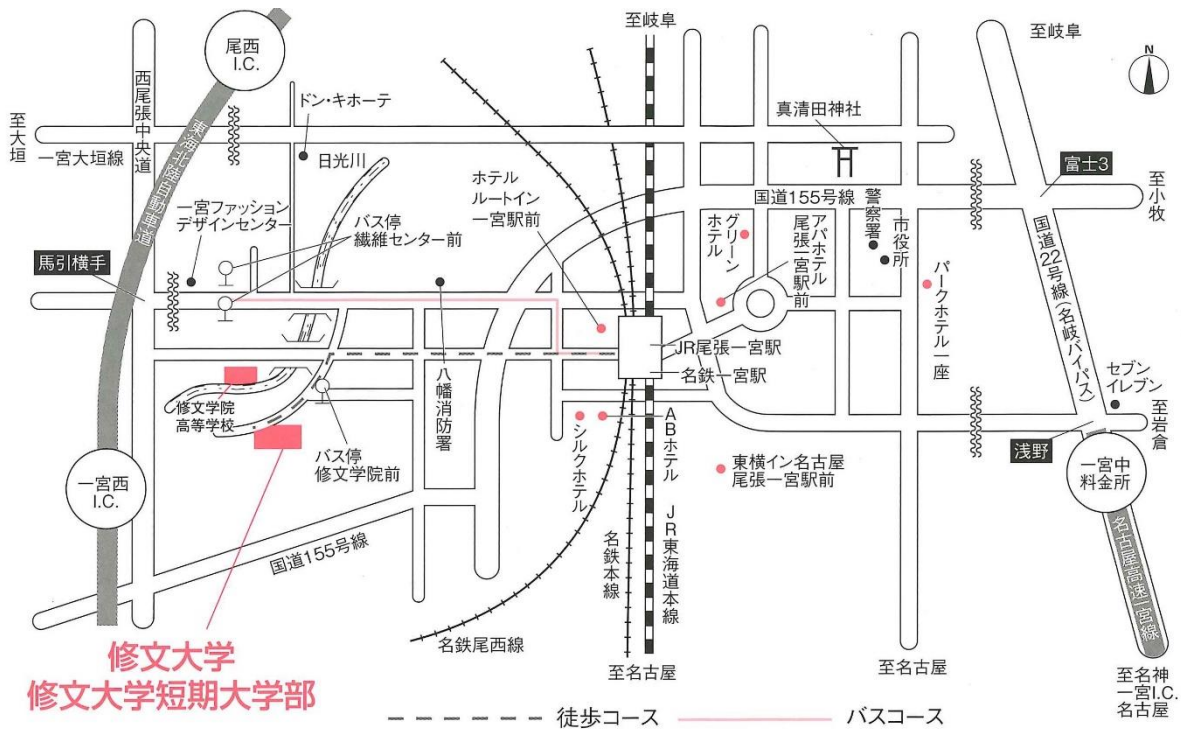


# 修文学院 校舎配置図





アクセスマップ、経路図（主な交通手段）



**修文大学**  
**修文大学短期大学部**

名古屋駅	J R : 9分 名鉄 : 14分	》	J R 尾張一宮駅	》	バス : 5分	 <b>修文大学</b> SHUBUN
岐阜駅	J R : 7分 名鉄 : 9分	》	名鉄 名鉄一宮駅	》	自転車 : 7分	
四日市駅	近鉄・ 名鉄特急 : 37分	》		》	徒歩 : 15分	

(2) 課外活動の紹介 (令和5年度 クラブ・同好会)

No.	名 称	主顧問	種類
1	バレーボール	多田井 幸揮	クラブ
2	バスケットボール	浅川 正堂	クラブ
3	バドミントン	梶浦 容子 (蟹江 尊徳)	クラブ
4	新体操	加藤 渡 (渡邊 黎美)	クラブ
5	フットサル	坂本 達哉	クラブ
6	ダンス	中野 靖彦 (安形 学)	クラブ
7	ピアノ	高橋 早紀子	クラブ
8	パソコン	増尾 明	クラブ
9	パティスリー	相墨 一彦	クラブ
10	手話	東山 新太郎 (原 智世)	クラブ
11	絵本	濱口 美紗希	クラブ
12	SNST	水田 文	クラブ
13	ボードゲーム	大西 一功	クラブ
14	精神衛生	足立 勝宣	クラブ
15	なかよしの会	南 亜紀	クラブ
16	ローターアクトクラブ	大矢 友子	クラブ
17	合気道同好会	相墨 一彦	同好会
18	Wall art 同好会	吉澤 幸	同好会

中長期計画の「学生の積極的なボランティア活動の推進」、「地域とのボランティア体制の整備」においては徐々にではあるが、ボランティア活動が行えるようになってきた。令和5年度は、女性支援・子育て支援の市民団体のイベントでのボランティアや子育て支援のイベントに学生会を中心に参加した。「クラブ・サークル活動の多様化で参加率70%以上」については、学部・学科の特性による活動時間のアンマッチやPR不足などの問題も存在する。自主的な同好会設立などが少しずつ増えているものの、目標には程遠いのが現状である。クラブのPR方法の工夫や、クラブ間の交流、大学祭へのクラブとしての参加など、クラブ活動全般を盛り上げていく工夫が必要である。

8. 授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関する事…※令和6年度

(1) 修文大学

①健康栄養学部・管理栄養学科

	一年次				二年次以降		
	入学手続時	前期 (入学手続時)	後期	計	前期	後期	計
入学金	200,000			200,000			
授業料		335,000	335,000	670,000	335,000	335,000	670,000
教育諸費		230,000	230,000	460,000	230,000	230,000	460,000
計	200,000	565,000	565,000	1,330,000	565,000	565,000	1,130,000

②看護学部・看護学科

	一年次				二年次以降		
	入学手続時	前期 (入学手続時)	後期	計	前期	後期	計
入学金	200,000			200,000			
授業料		495,000	495,000	990,000	495,000	495,000	990,000
教育諸費		230,000	230,000	460,000	230,000	230,000	460,000
計	200,000	725,000	725,000	1,650,000	725,000	725,000	1,450,000

②医療科学部 臨床検査学科

	一年次				二年次以降		
	入学手続時	前期 (入学手続時)	後期	計	前期	後期	計
入学金	200,000			200,000			
授業料		495,000	495,000	990,000	495,000	495,000	990,000
教育諸費		230,000	230,000	460,000	230,000	230,000	460,000
計	200,000	725,000	725,000	1,650,000	725,000	725,000	1,450,000

(2) 修文大学短期大学部

①生活文化学科 各コース共通

	一年次				二年次		
	入学手続時	前期 (入学手続時)	後期	計	前期	後期	計
入学金	200,000			200,000			
授業料		330,000	330,000	660,000	330,000	330,000	660,000
教育諸費		175,000	175,000	350,000	175,000	175,000	350,000
計	200,000	505,000	505,000	1,210,000	505,000	505,000	1,010,000

②幼児教育学科 第一部

	一年次				二年次		
	入学手続時	前期 (入学手続時)	後期	計	前期	後期	計
入学金	200,000			200,000			
授業料		250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000
教育諸費		125,000	125,000	250,000	125,000	125,000	250,000
計	200,000	375,000	375,000	950,000	375,000	375,000	750,000

③幼児教育学科 第三部

	一年次				二年次		
	入学手続時	前期 (入学手続時)	後期	計	前期	後期	計
入学金	200,000			200,000			
授業料		165,000	165,000	330,000	165,000	165,000	330,000
教育諸費		85,000	85,000	170,000	85,000	85,000	170,000
計	200,000	250,000	250,000	700,000	250,000	250,000	500,000

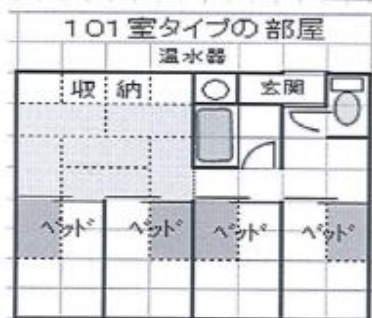
中長期計画の中核目標にある「教育目標確立」プロジェクトにより、学生が学納金を取められないために「学び」をあきらめることのないように、国の修学支援制度による授業料減免を受けることで負担軽減できるように全学的に周知、支援を行っている。また、延納や分納の申請を柔軟に受け付け、納入プランを学生一人一人の条件に合わせて細かく対応し、計画的に「学び」と「学納金納入」が進められるよう支援体制を整えている。

(3) 学生寮（桃花寮）：女子のみ

寮生活に要する経費（月額）

①入寮費 40,000円（入寮時のみ） ②寮費 18,000円 ③共益費 4,000円

<桃花寮の1階 平面図>



9. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係わる支援に関すること

(1) 学生サポート体制

①学生相談室

いろいろな心の悩みについて、相談員（臨床心理士）が親身になって、相談に応じている。

<利用方法>

相談は、事前の申し込みが必要となるので、カウンセラーまたは学生支援センターに申し込みをする。

(2) ハラスメント

本学の学生、教職員、すべての関係者が、性や人権に関して差別されたり不愉快な思いで学院生活が脅かされたりしないためのガイドラインがある。

<相談窓口のしくみ>

- ①相談しやすい窓口や方法を利用し、ひとりで抱え込まずに悩みを相談しよう。
- ②相談窓口及び監督者協議会は相談者のプライバシーや人権を守り、保守義務を遵守する。

